

青梅市文化財ニュース

第127号

昭和63年 5月29日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

市内のトウキョウサンショウウオ生息状況

トウキョウサンショウウオについては、4年前の「文化財ニュース」第77号に書きました。そのときには、「東京都のトウキョウサンショウウオ地域個体群」が、環境庁がまとめた「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の中で、「保護に留意すべき地域個体群」に位置付けられていること、青梅市では、多摩川左岸の加治丘陵と、右岸の草花丘陵に生息していることについて記しました。

今年の春、トウキョウサンショウウオに関心を持つ市民団体がネットワークを組み、東京都全域のトウキョウサンショウウオの一斉調査を行いました。青梅市の調査には私も参加し、市内の生息地も随分とわかってきたので、再度書くことにします。

青梅市内のトウキョウサンショウウオについて、まとまった報告が出たのは、1978年の環境庁による第2回自然環境保全基礎調査結果です。東京都については、青梅市出身の故金井郁夫氏が1969～1977年にかけて行った調査によるものです。このときの調査では、市内で25地点（加治丘陵6地点、草花丘陵19地点）の消息地が確認されています。それから21～29年経ち、当時の生息地がその後どうなっているかも関心のあるところでした。

今回の調査では、32地点（加治丘陵12地点、草花丘陵19地点）の生息地で、合計915個の卵のうと34頭の成体が確認できました。流域別では以下のとおりです。

＜加治丘陵＞ 成木川流域：富岡二丁目、成木二丁目

黒沢川流域：小曾木二丁目・三丁目

霞川流域：今井一丁目、塩船

＜草花丘陵＞ 多摩川本流域：友田町一丁目・五丁目、長瀬一丁目・二丁目・五丁目、
駒木町二丁目、畑中三丁目

大荷田川流域：友田町一丁目、長瀬九丁目

数字だけで比較すると、金井氏の調査時点よりふえています。トウキョウサンショウウオの分布が広がっているわけではありません。その後に発見された生息地もあるからで、金井氏の調査による25地点のうち10地点では今回確認はできず、環境の変化により絶滅してしまったと思われます。

トウキョウサンショウウオが生息するには、親が産卵し、幼体が育つ湧水のある止水域と成体が生活できる林があることが条件になります。20数年前の調査では、大半が山裾の水田（休耕田を含む）とその水路で卵のうや成体が確認されていますが、造成されて水田は跡形もなくなったところが数多くあります。

また、水質が悪くなったり、乾燥化が進んだため、産卵しても次世代が育たない場所もふえています。トウキョウサンショウウオは成熟するまでに4～5年かかり、10数年から20年生きると言われています。そうすると、子供が育つ環境がなくなっても、近くに林が残っていて親が生き残っていれば、水たまりさえあれば、10年位は毎年産卵に来ます。こういう場所は絶滅寸前の場所で、卵のうがあるからといって安心はできません。今回生息を確認した32地点の中にも存続の危ぶまれる場所が10地点ほどあります。こうしたことにも留意して保護に努めたいものです。

（文責 久保田）

*整備を進めて参りました、新町二丁目の東京都指定『青梅新町の大井戸』が5月15日より一般公開されます。昭和63年度から3回にわたる発掘調査によって南北33メートル、東西22メートルの国内最大規模と確認されたすり鉢形の井戸をぜひご覧ください。

午前9時から午後5時まで 入場無料 月曜日・夜間休館

また、旧吉野家住宅では6月14日まで、発掘調査により出土した品々を展示しておりますので、併せてご覧ください。

午前9時から午後5時まで 入場無料 月曜日休館

問い合わせ先 青梅市郷土資料室文化財係（☎0428-23-6859）